

社会科授業案(公開授業I)(各教科の概要・授業案：
社会科)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 澤入, 基裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024621

社会科授業案（公開授業Ⅰ）

授業者 澤入 基裕

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 9 日（木）10:00～10:50
 2 学 級 3年B組（男子 18 名 女子 21 名 計 39 名）
 3 単 元 名 企業を設立しよう ～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～
 4 単元目標

（1）各要素と単元目標の関連

意識した要素	単元目標
【要素 A】 経済活動の仕組みに関する知識・概念 企業を設立する上で必要な知識・概念	・企業を設立するための企画書作りや模擬投資活動を通して、経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任（市場において生産活動以外に社会的に貢献していること）について理解し、その知識を身に付けることができる。 （知識・理解）
【要素 B】 企画書作りや模擬投資活動をする上で、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用する力 地理学習や歴史学習で学んだことを関連させるなど多面的・多角的に考察する力 資料を活用する力 日本経済の問題を発見する力	・よい企業作りやよい企業を、経済の仕組みや島田市の特色をふまえた上で判断し、企画書作りや模擬投資活動をすることで、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察している。 （思考・判断・表現） ・個人や企業の経済活動に関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり企画書などにまとめたりしている。 （資料活用の技能）
【要素 C】 経済活動に対する関心・意欲 これからの自分たちの生活をよくしようとする態度	・現在の経済活動への課題意識をもち、個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、今後、自分たちの力でよりよい未来を創造しようとする意欲をもつことができる。 （関心・意欲・態度）

（2）要素育成の判断基準（特に意識したもの）

【要素 A】 企業を設立する上で必要な知識・概念

検証方法：第 3 時～第 7 時追究用紙，企画書，第 11 時模擬投資活動，ポートフォリオ	
3	企業を設立するための企画書作りや模擬投資活動をおこなう中で、経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任（市場において生産活動以外に社会的に貢献していること）について理解し、企画書やポートフォリオにまとめることができる。
2	企業を設立するための企画書作りや模擬投資活動をおこなう中で、経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任（市場において生産活動

	以外に社会的に貢献していること)について1つもしくは2つの視点を活用し、企画書やポートフォリオにまとめることができる。
1	企業を設立するための企画書作りや模擬投資活動をおこなう中で、経済活動の意義、市場経済の基本的な考え方、生産や金融などの仕組みや働き、企業の役割と責任(市場において生産活動以外に社会的に貢献していること)について触れずに、企画書やポートフォリオにまとめている。

【要素B】 企画書作りや模擬投資活動をする上で、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用する力

地理学習や歴史学習で学んだこと内容を関連させるなど多面的・多角的な見方や考え方

検証方法：第2時、第8～11時、企画書、模擬投資活動、ポートフォリオ	
3	よい企業作りやよい企業を、経済の仕組みや島田市の特色をふまえた上で判断し、企画書作りや模擬投資活動をすることで、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察している。
2	よい企業作りやよい企業を、経済の仕組みや島田市の特色のどちらか一方から判断し、企画書作りや模擬投資活動をすることで、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察している。
1	経済の仕組みや島田市の特色を考えることなく、企画書作りや模擬投資活動をおこなっている。

【要素C】 これからの自分たちの生活をよくしようとする態度

検証方法：第1時・第12時追究用紙、企画書、ポートフォリオ	
3	現在の経済活動への課題意識をもち、個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、今後、自分たちの力でよりよい未来を創造しようとする態度を身に付けている。
2	現在の経済活動への課題意識をもち、個人や企業の経済活動に対する関心を高め、それを意欲的に追究している。
1	個人や企業の経済活動に対する関心を高めていく中で、意欲的に追究しようとする姿が見られない。

5 単元について

(1) 教科テーマと単元との関わり

本校社会科部では、教科テーマを「主体的に社会を創造する生徒を育てる単元開発」とし、社会に主体的に参加し、よりよい社会を創造しようとする生徒の育成を目指している。本研究を実践することで、要素A(学んだ力：何を知っているか、何ができるか)・要素B(学ぶ力：知っていること・できることをどう使うか)・要素C(学ぼうとする力：どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)の育成をすることができると思う。その際、未来をつくるために必要な実践力(主体的にかかわろうとする力)と主体性を高める授業課程(単元構想)を関連させ実践を進めていく。実社会に参加しようとする中で、学びの価値を感じさせ、社会を形成する一員であるという思いをもたせたい。

今回の実践では、公民的分野(2)私たちの暮らしと経済の単元開発に取り組む。経済分野の学習を進めていく上での難しさは、第一に、重要語句や仕組みの理解に時間がかかり、事象間の関連性

に気づいたり、理解したりすることが不十分になるということ。第二に、流通の仕組や市場経済の仕組が生徒の実感と合わない部分があるということである。そこで、わかりやすくするためには、経済の世界の関連性（①生産者と消費者は、お金、商品[財・サービス]、賃金、労働力などでつながる。②労働→モノ・サービスを作る→利潤を得る→購入する→モノ・サービスが売れるという経済の循環。③消費者は生産者にもなり、生産者は消費者にもなる。）に気づかせることや身近で具体的な事例を教材として用いたり、参加型の学習活動を取り入れたりする（①生徒中心の学習。②考える場面を多く設定することで、深く追究する力を高める。③合意形成力を高める。）ことが重要であると考えた。そして、経済学習に生徒の創造的な学びの場を与えたいと考えた。

以上のことをふまえ、単元課題を「企業を設立しよう～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～」とした。単元を通して、経済に関する知識や概念を獲得し（要素A）、これらを用いながら、課題を発見し解決する力の育成（要素B）ができるように構成した。単元課題を設定する上で、特に大切にしたいことは、生活と経済の関連性、中学校3年間の学び（地理・歴史学習、地方自治分野の学習）の活用である。これらの活動を通して、将来、起業しなくても多くの生徒が職を得ていく中で、企業が存続、成長、発展するためにどうしていきべきかを知り、考える力をつけさせたい。本単元では、大きく3つの段階に分けて実践していく。

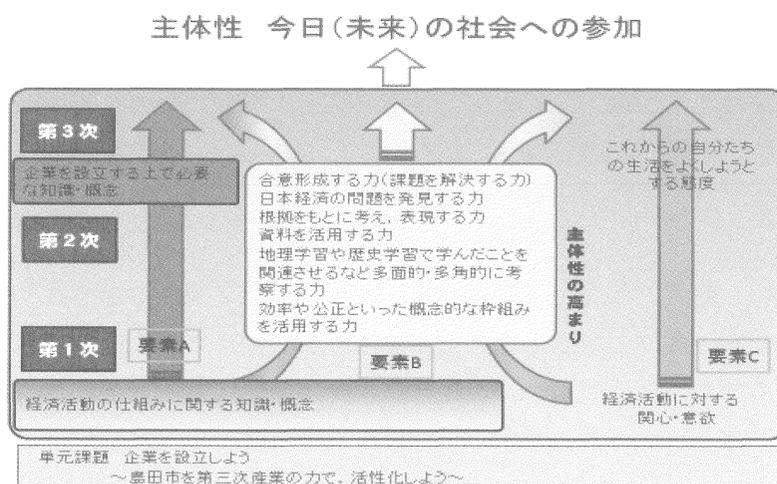
第1次では、生徒自身が将来の夢を膨らませ、その中で現実社会の経済を学んでいけるように構成した。具体的には、将来どんな企業に勤めたいか、どんな企業を作りたいか課題を与え、企業作りに必要なものは何か（生産の要素）を考え、課題を発見させていきたい。また、この活動の中で本単元に必要となる視点（企業間競争・労働問題・社会貢献）を見つけさせたい。そして、この第1次で生まれた、学ぼうとする力（要素C）を第2次で活用させていく。

第2次では、第1次で生まれた課題を解決させていながら、経済に関する知識・概念の獲得（要素A）をめざす。この際、生徒には教師側の作成したモデルケース（企画書）を提示し、考察させていく。考察する具体的項目には、視点を含めた資金の獲得方法（金融）、企業間競争、不景気対策、労働問題、企業の社会貢献などを扱う。

第3次では、学んだ力（要素A）を活用しながら、具体的に企業の企画書作りを進めていく。ここで大切にしたいことは、「よい企業をつくること」、「よい企業を判断し、投資すること」の2つである。「よい企業作り」のためには、企画書の作成、企業間競争、労働問題、社会的役割（社会貢献）を重視する。この中で、『島田市を第三次産業の力で、活性化させよう』というサブテーマを確認し、学習を進める。自由な立地としてしまうと、その妥当性が評価できないという課題が生じる。このサブテーマを掲げることで、地方自治で学習した島田市の現状などを基に、生徒自身が経済的な視点から地域をとらえなおしたり（経済的メリット・デメリットを把握）、地域の一員としての自覚や意識を養ったりすることができると考えた。島田市が市民を対象におこなった地方創生アンケートでは、「地方創生に期待すること」に対して「雇用の創出（26.2%）」、「島田市が住みにくいと感じる理由」に対して「仕事がない（29.3%）」、「就労するならどの分野の仕事を希望するか」に対して「商業・サービス業（61%）」という結果であった。さらに、第三次産業は、生徒にとって最も身近な職やサービスであるということサブテーマ設定の理由とした。また、中学校の学習の集大成として、地理学習・歴史学習・公民学習（対立と合意、効率と公正といった社会的なものの見方や考え方を活用、地方自治分野での学習、島田市の産品や特色について学習）を活用させていきたい。グループ作りでは、島田市・その他地区の生徒を混合にしたグループを形成

していく。「よい企業を判断し、投資すること」では、生徒一人ひとりを企業の広報担当者とし、企画書の提案（プレゼン）を行った後、学級の仲間から投資をしてもらい、その投資額に応じて、企業が設立できるかどうかということにする。このような模擬投資という活動を入れることで、仲間から評価されることで追究意欲を高めたり、思考力・判断力の育成をしたりできると考えた。

以上のように、単元を構成する（第1次：要素C⇒第2次：要素A・B⇒第3次：要素B・C）ことで、単元を通して、要素C（学ぼうとする力）の育成へとつながり、さらには、本校研究サブテーマ「社会の形成に参加する力を育てる授業作り」の実践へと進んでいく。その上で、パフォーマンス課題を工夫し、ルーブリック評価を明確（評価の視点は生徒自らに考えさせていく）にすることで、思考の深まりをより可視化させていく。そして、この学習を、自分たちの「未来」を考えるきっかけとし、今後の社会を形成する重要な一人としての意識を高めていきたい。



【図1 企業を設立しよう～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～ 単元構造図】

(2) 指導計画 (12 時間扱い)

次	時	授業名・目標・有機的に関連づけたい事柄	主要要素		
			A	B	C
第1次	第1時	<p><どんな企業に勤めたい？></p> <p>単元を通して追究する課題「企業を設立しよう～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～」を把握し、企業についての興味をもち、意欲的に追究しようとする。 (関心・意欲・態度)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】</p> <p>経済 消費者 生産者 サービス 大企業 中小企業 資本主義</p>		○	◎
	第2時	<p><企業をつくるためには何が必要なのだろう？></p> <p>様々な企業のアイデアから、企業を作る上で必要となる要素は何かを考えることで、企業の目的が利潤であることや生活に密接に関わりあっていることに気付いたり、よい企業は、企業間の競争に打ち勝つことのできるセールスポイントをもっていたり、労働者の雇用問題（労働者を守る取組）、企業の社会貢献活動などに積極的に取り組んでいることに気づくことができる。 (思考・判断・表現)</p>	○	◎	○

		<p>【有機的に関連づけたい事柄】 利潤 資本 公企業 私企業 企業間競争 労働問題 社会貢献</p>			
第2次	第3時	<p><資金を手に入れよう> 企業の資金をどのように手に入れるのかを考えることで、直接金融と間接金融の違いに着目し、企業の業績を伸ばしていくためには、銀行からお金を借りるべきか、株式を上場すべきかを考えることができる。 (知識・理解)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】 株式会社 株主 配当 株主総会 証券取引所 株価 直接金融 間接金融 金融 大企業 中小企業</p>	◎	○	
	第4時	<p><ライバル社との競争に勝とう> ライバル企業に勝つための方法を考えることで、価格と消費者の関係に気づき、市場経済における価格の決め方や流通のしくみなどを理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】 流通 商業 小売業 流通の合理化 市場 市場経済 需要量 供給量 消費者保護 均衡価格 市場価格 独占 寡占 独占禁止法 公正取引委員会</p>	◎	○	
	第5時	<p><不景気をどう乗り越える？> 自由競争の始まりが社会に好景気をもたらすことを理解した生徒が、不景気における社会状況を予想し、どのようにして不景気を乗り越えていくかを考えることで、新商品開発の工夫、外国企業との提携や海外への企業進出、貿易と為替の仕組みについて理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】 景気 好景気 不景気 景気変動 物価 金融政策 中央銀行 インフレーション デフレーション 為替</p>	◎	○	
	第6時	<p><労働者を守ろう～誰を雇うべきか～> 労働者が安心して働ける環境とはどのようなものか、労働者と経営者それぞれの立場にたち考えることで、保障された権利を活用していることや生活を守る努力をしていることに気づく。その一方で、市場経済において、労働者の立場が不利になることがあるため、労働者を守る仕組みがあるということを理解することができる。 (知識・理解)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】 労働組合 労働基準法 労働組合法 労働関係調整法 労働災害 ワーク・ライフ・バランス 非正規労働者 障害者雇用促進法 外国人労働者</p>	◎	○	

	第7時	<p><企業に大切なことは何だろう></p> <p>企業の活動する目的は何かを確認したうえで、企業は利潤だけを追い求めていくべきなのか、企業が誰のものなのかを考えることで、企業の役割と責任について理解することができる。</p> <p>(知識・理解)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】</p> <p>所得 消費者主権 資本主義 社会的責任 雇用 環境保全</p>	◎	○	
第3次	第8時	<p><企画書を作ろう></p> <p>ここまでの学習を活かして、企業のセールスポイント、企業の拠点、資本金の準備方法や取引銀行、不景気対策、社会的な役割(社会貢献)、福利厚生など、小集団の考えをまとめることができる。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】第1時～第7時の既習事項</p>	○	◎	○
	第9時				
	第10時	<p><プレゼンをしよう></p> <p>小集団ごとにプレゼンをする中で、様々な資料を収集・活用したり、適切に選択したりして、追究し考察した結果をまとめることができる。</p> <p>(資料活用の技能)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】第1時～第7時の既習事項</p>	○	◎	○
	第11時	<p><企業を設立しよう></p> <p>経済の仕組や島田市の特色をふまえ、地域の活性化につながる企業の設立を考えたり、各グループの企画書を模擬投資という形で評価したりすることで、個人や企業の経済活動における役割と責任について気づき、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察することができる。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】第1時～第7時の既習事項</p>	○	◎	○
	第12時	<p><振り返ろう></p> <p>他グループからの投資額や意見(評価)をもとに、企画書の見直しを進めたり、自分の投資に応じてどの程度の配当金が戻ってくるのかを考えたりすることで、経済活動の仕組みを理解し、これからの経済活動に意欲的に関わろうとする態度を養う。(関心・意欲・態度)</p> <p>【有機的に関連づけたい事柄】第1時～第7時の既習事項</p>	○	○	◎

6 本時について

(1) 授業名 企業を設立しよう～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～(11/12)

(2) 目標

経済の仕組や島田市の特色をふまえ、地域の活性化につながる企業の設立を考えたり、各グループの企画書を模擬投資という形で評価したりすることで、個人や企業の経済活動における役割と責任について気づき、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察することができる。

【要素B】(思考・判断・表現)

(3) 授業過程

学 習 活 動	・支援及び留意点 ◎評価	形態・時間
<p>○ゲストティーチャーの紹介をする。</p> <p>○課題を確認しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>あなたは起業を夢見る若者です。あなたが長年住んでいる地元島田市では、現在人口が減りつつあります。そこで、愛する島田市のためにも、「地域の活性化をはかることのできる企業を設立したい」と考えています。今までの学習（地理・歴史の学習、地方自治の学習）を活かし、起業をするための企画書をつくりましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史、地理、地方自治の学習で学んだことを活かして、島田市を第三次産業の力で、活性化させよう。 ・企業の役割と責任とは何だったのだろう。 <p>○企画書の内容を確認しよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>企業を設立しよう～島田市を第三次産業の力で、活性化させよう～</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの島田市商工会青年会議所、島田市役所の方を紹介 ・企業が生産活動をおこなう目的は、利潤を生み出すことにあるということを確認する。その中で、企業の役割と責任を考えさせる。 ・島田市の特色を活かすために、第三次産業を活用することを確認する。 ・企業としてのセールスポイント、労働者の雇用問題、社会貢献などポイントを絞り、説明をさせる。 ・「よい企業」とは何か、なぜその企業へと投資をするのか明確な理由（根拠）をもたせる。 ・自分のグループには投資できない。 ・投資理由を発表させる。 	<p>一斉 15分</p>
<p>○企画書のプレゼン内容を確認しよう。</p> <p>【A案】 【B案】 【C案】</p> <p>○どの企業に投資するか考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切なのは、利潤を生み出すことができそうかどうかだと思ふ。利潤が出なければ、企業として社会貢献もできないだろう。 ・島田市という地理的特色を考えたときに、何が地域を活性化させるのだろう。 ・労働者のことを第一に考えている企業は、成長していく可能性も高いはずだ。 <p>○投資をしよう。集計をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A案の企画書は、コストをあまりかけずに効率よく企業運営ができそうだと思う。少ない資本でも、企業をしっかりと運営していくことが重要だ。 ・C案は、生産者だけを考えるのではなく、島田市の実情をふまえて、消費者のことまでしっかりと考えられている。 	<p>◎個人や企業の経済活動における役割と責任について気づき、効率や公正、幸福といった概念的な枠組みを活用し、多面的・多角的に考察することができたか。</p> <p style="text-align: center;">【要素B】 (思考・判断・表現)</p>	<p>個人 5分 小集団 15分</p> <p>一斉 10分</p>
<p>○会議を終えて、自分の考えをまとめよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオにまとめる。 	<p>個人 5分</p>